

# ながい 議会だより



**6月議会定例会**

**政務活動費の収支報告**

**町づくりを問う**

一般質問7人が登壇

②

④

⑤

議会ホームページ



泰翁寺の蓮の花



**第204号**

令和5年8月1日発行

神奈川県中井町議会

# 6月定例会

6月6日～9日

## 審議内容

一般質問7名	9問
条例改正	3件
町道路線の認定	1件
補正予算	1件
報告	2件
人事案件	7件
審査報告	
文教民生常任委員会	

## 条例改正

◎中井町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

職員が行う新型コロナウイルス感染症対策業務について、人事院規則等が改正されたことから、国家公務員に準じた改正を行いました。

◎中井町税条例の一部を改正する条例

地方税法施行規則の一部改正に伴い、一定の三輪以上の特定小型原動機付自転車に係る軽自動車税の種別割の税率区分を改正しました。

◎中井町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

地方税法施行令の一部改正に伴い、国民健康保険税の課税限度額の見直し及び低所得者に係る国民健康保険税の軽減判定所得の見直しを行いました。

## 補正予算

◎令和5年度中井町一般会計補正予算(第2号)

3011万1千円の追加  
総額44億2116万2千円に

歳出では総務費で、コミュニティ助成事業の採択に伴うコミュニティ助成事業助成金を計上したほか、住民基本台帳法・戸籍法の改正に伴いシステム改

修に係る経費を増額しました。

民生費では、低所得者の子育て世帯に生活支援を行うため、子育て世帯生活支援特別給付金の支給に係る補助金及び事務費を、今般の物価高騰の負担感が大きい低所得世帯の負担軽減を図るため、住民税非課税世帯向け給付金の支給に係る補助金及び事務費をそれぞれ計上しました。また、保健福祉センターの経年劣化に伴う施設修繕に係る費用を計上しました。

衛生費では、対象児童の医療費の増加に伴い養育医療費を増額しました。

歳入では、歳出の補正と合わせて、国・県支出金で、未熟児等養育費負担金、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び、子育て世帯生活支援特別給付事業補助金並びに同事務費補助金等を増額しました。諸収入では、コミュニティ助成事業助成金を新たに計上しました。

なお、今回の歳入歳出の補正に伴い、前年度繰越金を増額することで収支の均衡を図りました。

## 町道路線の認定

路線名 町道沢ノ上線

道路の円滑な維持管理と利用者の利便性を図るため、町道路線を認定しました。

起点 藤沢字寺ノ下55-4  
久所 久所字沢ノ上71-1

## 報告 第1号

「令和4年度中井町一般会計繰越明許費」の繰越報告

令和4年度一般会計補正予算として計上しました「戸籍情報システム改修事業」、「農道整備事業」、「地籍調査事業」、「町道舗装補修事業」について、いずれも当該年度内に事業が完了しないことから、その翌年度執行に係る事業費の繰越計算書を調製しました。

## 報告 第2号

「令和4年度中井町一般会計継続費」の通次繰越報告

令和4年度一般会計当初予算として計上しました「町勢要覧作成業務」について、当該年度内に年割額の支出が完了しないことから、その翌年度執行に係る事業費の繰越計算書を調製しました。

## 人事案件

農業委員会委員に次の7名を任命することに同意しました。

- 尾上輝美氏
- 金子和夫氏
- 井上恵一氏
- 大原修氏
- 山口隆一氏
- 権守忠義氏
- 鈴木優氏

任期 令和5年7月20日から3年間。

**審査報告**  
**文教民生常任委員会**

本委員会に付託された令和5年陳情第1号について、審査の結果、陳情趣旨に賛同できることから採択し、「適格請求書等保存方式（インボイス制度）の実施延期・見直しを求める意見書」（4ページ）を可決し、関係機関に提出しました。

**第2回臨時会**

4月7日

審議内容

補正予算 1件

**補正予算**

○令和5年度中井町一般会計補正予算  
(第1号)

4155万1千円の追加  
総額43億9105万1千円に

歳出では、新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種の延長に伴い、接種体制の確保を図るため、関係経費を計上しました。

歳入では、歳出の補正に合わせて、新型コロナウイルスワクチン接種関連の国庫補助金等を計上しました。

**審議した議案等と審議結果**

令和5年第2回臨時会

提出者	議案名	議員名	議決日	審議結果	石渡正次	古宮祐二	多田 勲	峯尾 進	尾尻孝和	加藤久美	森 文嘉	岸 光男	原 憲三	成川保美
町長	令和5年度中井町一般会計補正予算(第1号)		4/7	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※井上泰弘議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対を表しています。

令和5年第2回定例会

提出者	議案名	議員名	議決日	審議結果	曾我尚人	武井一紀	関野達夫	相原晃一	古宮祐二	多田 勲	石渡正次	加藤久美	尾尻孝和	井上泰弘	岸 光男
町長	中井町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町税条例の一部を改正する条例		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町国民健康保険税条例の一部を改正する条例		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	町道路線の認定について		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和5年度中井町一般会計補正予算(第2号)		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町農業委員の任命について(全7名)		6/9	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員	適格請求書等保存方式(インボイス制度)の実施延期・見直しを求める意見書について		6/9	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※森文嘉議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対を表しています。



# 意見書

## 適格請求書等保存方式（インボイス制度）の実施延期・見直しを求める意見書

2023年10月から消費税インボイス制度（適格請求書等保存方式）が実施されようとしています。物価高騰が暮らしと営業に深刻な影響を与えている中、制度実施に向け、2021年10月からインボイス発行事業者の登録申請が開始され、不安と戸惑いが広がっています。対象となるのは、個人事業主、フリーランス、一人親方、個人タクシー運転手、小規模農家、シルバー人材センターの仕事をする高齢者など、多岐にわたります。

これまででは年間の課税売上高が1,000万円以下であれば消費税の納税は免除されていましたが、インボイス制度の登録事業者になれば売上高にかかわらず納税義務が発生することに加え、発行する請求書の様式変更など煩雑な事務負担が生じることとなります。消費税免税事業者はインボイスが発行できないため、課税業者との取引から排除され、廃業を余儀なくされるなどの懸念があります。

同制度の導入は、長引くコロナ禍によって打撃を受けている町内小規模事業者などに追い打ちをかけ、地域経済の再生を阻害しかねません。

日本商工会議所や全国中小企業団体中央会、日本税理士会連合会をはじめ様々な団体・個人から、制度の廃止や実施延期を求める悲痛な声があがっています。

よって、国においては、これらの声を真摯に受け止め、中小零細事業者の事業存続と再生、ひいては日本経済振興のため、インボイス制度の実施を延期・見直しすることを強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和5年6月9日

神奈川県 中井町議会

衆議院議長	細田博之 殿	財務大臣	鈴木俊一 殿
参議院議長	尾辻秀久 殿	厚生労働大臣	加藤勝信 殿
内閣総理大臣	岸田文雄 殿	経済産業大臣	西村康稔 殿

## 令和4年度議員に係る政務活動費の収支報告

政務活動費は、地方自治法の規定に基づき、議員の調査研究に資するため必要な経費の一部として、議員1人当たり月額1万円が交付されています。 (単位：円)

議員氏名	支 出 額							合計	支給額 (交付額)	収 支 差引額 (返還額)
	①調査 研究費	②研究 研修費	③資料 作成費	④資料 購入費	⑤ 広報費	⑥ 広聴費	⑦ 事務費			
石渡正次		68,370		53,752				122,122	120,000	0
古宮祐二	18,855			35,820				54,675	120,000	65,325
多田 勲		68,732		59,541				128,273	120,000	0
峯尾 進	1,000	36,895		68,318			3,523	109,736	120,000	10,264
井上泰弘		32,150		45,132			6,360	83,642	120,000	36,358
尾尻孝和				53,124	95,950			149,074	120,000	0
加藤久美		25,000		10,950	111,521			147,471	120,000	0
森 丈嘉		69,680		44,550			5,792	120,022	120,000	0
岸 光男	18,855			92,772				111,627	120,000	8,373
原 憲三				101,365			10,000	111,365	120,000	8,635
成川保美	18,855	65,326		33,972			10,000	128,153	120,000	0
戸村裕司				29,815				29,815	120,000	90,185

### 政務活動費のおもな使途基準

掲載は議席順です。詳細は議会事務局にあります。

○収支報告は、条例や申し合せ事項等の使途基準に従い、領収書原本や資料等を添付して議長に提出します。残額が発生した場合は、町に返還します。

- ① 調査研究費：視察を行った場合の交通費等関連支出が認められます。昼食や土産代は該当しません。
- ② 研究研修費：自ら主催した研究会の経費や団体等が開催する研修会等への参加費など。

- ③ 資料作成費：調査研究活動に必要な資料作成に要する経費。
- ④ 資料購入費：図書購入や新聞雑誌購読料（読売・毎日・朝日・神奈川新聞は除く）など。
- ⑤ 広 報 費：広報紙・報告書等の印刷費や送料など。
- ⑥ 広 聴 費：町民から町政や政策等に対する要望・意見を聴取するために必要な経費。
- ⑦ 事 務 費：事務用品や通信費、振込手数料など。名刺印刷費は認められません。

一般質問

# 震生湖の 観光地としての展望は



相原 晃一 議員

**町長** 可能性を踏まえ秦野市と連携する



今後の観光振興が期待される震生湖

震生湖は大正12年に誕生し、今年9月には100年を迎える。令和3年に国登録記念物に登録され注目を集めているが、震生湖をいかに活用して中井町の発展へと結びつけていくかを問う。

**問** これまでの整備状況や事業費は。

**答** 平成28年度より着手し、散策路整備等に約1187万円である。

**問** 今後の施設・設備の計画内容は。

**答** 今年度は、中井町側進入路付近に5、6台の駐車場と、湖畔近くにQRコード対応の情報案内板等の整備を考えている。

**問** 駐車場から震生湖へのアプローチとして、アシサイなどを植樹し、進入路を整備する考えは。

**答** 今後の整備については、改めて内部で調整し考えていきたい。

**問** 秦野市から要望のある、橋東側湖面の散策路未整備部分の計画は。

**答** 予算の中で計画的に進めていくため、現在のところ、整備予定はない。

**問** 震生湖でのイノシシの出没情報が地元からあり、安全への配慮は。

**答** イノシシが、訪問客に危害を加える可能性があるとは聞いてないので、現在のところはイノシシ

対策は考えていない。

**問** 環境の維持管理を行う上で、地元自治会などに協力の働きかけを考えているか。

**答** 地元を愛し、きれいにすることは大切だと思うので、地域の方々の関わりを考えていきたい。

**問** 花や樹木には名札がついていないが、説明を加え掲示する考えは。

**答** 今のところ、銘板等をつける考えはない。

**問** 震災遺構が土砂に埋まり草木に覆われている震災遺構を直接見られるようにする取組は。

**答** 草が繁茂して覆いかぶさっているのであれば、草刈りなどは可能と考える。

**問** 地層、植物、野鳥や昆虫類などの観察会を催す考えは。

**答** 自然観察体験、生物多様性ハイクを秋口にかけ実施し、また、ノルディックウォークや文

化財ウォークを今後、検討実施していきたい。

**問** ゆっくりくつろげる場所を中井町側に整備する考えは。

**答** 訪れた方をもてなすことは、観光振興に大変重要なことであるが、設置の予定はない。

**問** 秦野市との連携で紅葉時期はライトアップ、クリスマス時期にはイルミネーションの点灯による演出で、にぎわいをつくり出す考えは。

**答** 秦野市に話はあるが、町単独での事業展開の考えはない。

**問** 町長は、年間にわたり観光客を見込める震生湖の観光振興をどのように考えているか。

**答** 震災後100年を迎えるに当たり、様々な取組を秦野市と連携し、中井への回遊性を高める道筋をつけてきた。今後の可能性を踏まえ、より発展へと結び付けていくため秦野市と連携を取り、地域の皆様の理解を得て、町として支援の取組みをしていく。

一般質問

# 井ノ口小学校歩道橋の今後は



加藤 久美 議員

## 町長 学校施設の防犯面や耐震性から撤去する方向

井ノ口小学校の歩道橋は、昭和44年に児童の安全を確保するため、道路管理者であった県が設置したもので、平成13年度、県から町へ移管された。当時の中井町は砂利産業が盛んで、毎日多くのダンプカーが行き交うため、安全な通学路から学校へダイレクトに繋がる歩道橋は児童の安全確保には大変有効なものでした。

しかし、昨今において一般道から誰でも学校敷地内へ入ることのできる特殊形状は、不審者の侵入など、防犯面や老朽化した歩道橋の安全性も問われています。

平成8年度に県が安全点検を行い、平成16年度に町が補修や塗装工事を行った。その後、東日本大震災の教訓から、道路橋の安全基準が全面改訂となり、本町では平成28年度に耐震性等の調査を行い、補修を行わなければ震度6弱で壊れる恐れがあることが判明。平成29年度には補修設計が行われました。



築54年の井ノ口小学校歩道橋

**問** 今後の歩道橋の在り方について、町の考えと対策は。

**答** 学校施設の防犯面や耐震性などから撤去する方向で考えている。撤去にあたり、児童の安全に配慮した通学路の見直しなど、教育委員会や学校関係者と協議していきたい。

**問** 現在の歩道橋の安全性と今後の工事計画は。

**答** 平成24年度に橋梁点検を実施し、損傷確認を行ったところ、緊急措置を講ずるような損傷は確認されていない。現在の示方書に基づく耐震性は不足し耐震補強工事が必要と認識している。

**問** 耐震診断から6年が経過し、さらに健全度は低下している可能性がある、との認識でよいか。

**答** 日常管理点検では進行を確認できない。

**問** 歩道橋を存続させるため耐震補強などを行った場合、撤去した場合の見積金額は。

**答** 平成28年耐震診断を行った際の算出では、耐震補強、補修も含めて4750万円。(工事費3500万円、設計等で1250万円。)

**問** 撤去費用約2200万円。(工事費2000万円、設計200万円。)物価高騰などで、恐らく金額が上がると考えている。

**問** 平成28年度の耐震補強設計により補修の必要性が明らかになったが、重く受け止めること

ができず実行されなかった。気づきの不足があったと思う。また、まち整備課と、教育課の課題意識の共有不足もあったと感じている。平成30年、同僚議員の予算質疑に対し、予算不足を理由に、対応されなかった。これは明らかに、守られるべき子どもたちの安全性をおろそかにしたと私は感じている。

**答** 橋を落とす、又は耐震補強化するには条件整備が必要。特に児童の安心安全な通学路の整備が大きな課題。状況をなお精査し、考えよりも早く対応できると思う。

**問** 5月には震度5強以上の地震が4回あり、早急に対応、対策をするべきである。震災や犯罪は待ったなし。町長の英断も必要だと思つ。

**答** 先ほどご回答は同じ。

※示方書…各作業の工程、施工の方法、仕上り、材料について請負者に指示を与えるもの。



一般質問

# 一人暮らしの高齢者の生活支援は



多田 勲 議員

## 町長 高齢者を見守り支えあう体制を構築していく

今後とも住み慣れた地域で生活を継続でき、自宅を中心に、自立した日常生活を続けられる地域社会の実現に向けて、どのように一人暮らしの高齢者の生活支援をしていくか伺います。

**問** 在宅一人暮らし高齢者の現状をきめ細かく把握する必要があるのでは。

**答** 令和3年の10月から、町の高齢者支援員と地域包括支援センター職員の2名体制で訪問調査を実施し、現状把握に努めている。

**問** 高齢者が利用しているソーシャルメディアやウェブサイトを活用してオンライン上で要望や意見の募集を行う考えは。

**答** 当面はペーパー方式を考えているが、今後、オンライン環境の利用状況を見ながら対応していきたい。

**問** 高齢者、障がい者の負担を減らすため、ごみ戸別収集する考えは。

**答** 現在、ごみの戸別収集に代わる手法として、介護保険地域支援事業の生活支援体制整備事業で、ごみ出し等の支援を行っており、ごみの戸別収集の考えはない。



**問** 生活支援コーディネーターの業務負担が大きいことから、同コーディネーターの人数を増やす必要があるのでは。

**答** 生活支援をしていくにあたり、コーディネーター自体の人数を増やしていくより、ボランティア等の生活支援サービスの支援登録者を確保していくことが重要であるため、現在はコー

ディネーターを増やすことは考えていない。

**問** 支援登録者を安定的に確保しながら増やしていく方策は。

**答** 委託をしている社会福祉協議会と共通の認識があり、今年度も引き続き協議を続けていく。

**問** 重層的な支援体制ができれば、町全体で分野を問わない包括的な相談支援ができる。町は重層的な支援体制整備事業に取り組む考えは。

**答** 現在、1つの建物の中に包括支援センター、福祉課、健康課があり、色々なケースの対応ができる状況。必要に応じて関係機関につなげる等の対応もできている。

**問** 地域包括ケアシステムの地域ケア会議では、個別課題の解決はどのように図られているか。

**答** 個別ケースの検討は、対象者を支援している事業所等の関係者間で、対象の方が地域生活

を続けられるために必要な支援を検証して個別課題の解決を図っている。

**問** 見守りネットワークの情報共有の方法や個人情報等のルールづくりは。

**答** ネットワーク構成員からの情報の共有は考えてなく、ルールづくりも考えていない。

**問** 緊急通報サービス事業は令和5年度より、どのように見守り形態が変わったか。

**答** 警備会社の警備員が現地に駆けつけたり、熱中症関係の情報伝達等、充実した見守り体制の確保をしている。

**問** 人による見守りではなく、ICT技術を活用した見守りについて、どのような考えか。

**答** 随時、社会情勢の変化等を見ながら、導入に向けて検討したい。

一般質問

# 所得の1割を超える国保税負担、 軽減手立てを

他1問



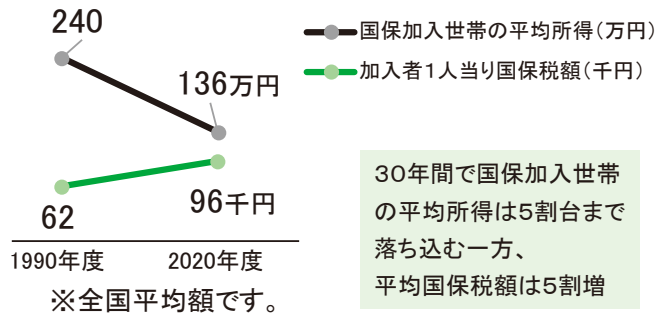
尾尻孝和 議員

町長 基金も活用し、国保運営していきたい

**問** 国民健康保険加入世帯が、ほかの医療保険加入世帯の場合によつては2倍程度の税負担となっている。さらには、国保加入世帯の所得が30年間で5割台まで減っているのに、税は1.5倍になっている。

1人当たり法定外線入の県内自治体平均額8848円。中井町でも1人当たり4000円余り増額することで県内平均額に並びます。2023年3月末の国保基金残高1億5200万円と合わせ活用することで、国保税の引下げが、できるのでは。

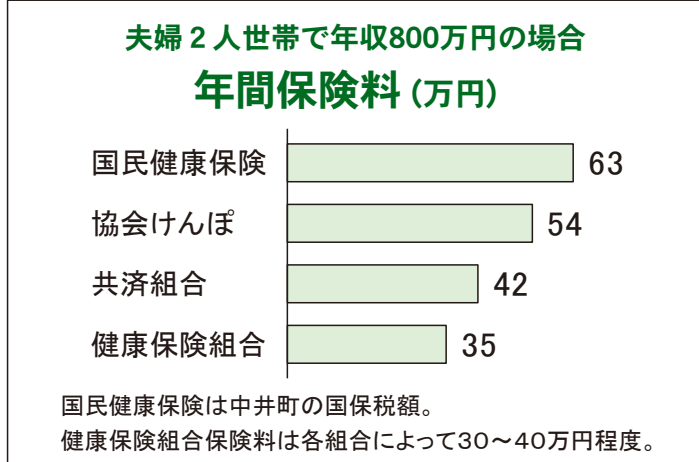
## 国保世帯の平均所得と平均国保税の推移



**答** 将来的なところも見据えた中で、収支が赤字にならないように、基金も活用しながら国保運営をしていきたい。

**問** 1300名を超えていると思われる加齢性難聴の人にとって補聴器は人間関係を作っていく必需品であり、認知症の予防と進行抑制にも有効であると言われます。30万、40万円という

## 加齢性難聴の方への支援を



**問** 耳鼻咽喉科を受診して、補聴器情報提供書を発行してもらう。この提供書で、確定申告の補聴器の医療費控除も受けられる。そして、補聴器を調整する認定技師がいるところで補聴器を購入する。補聴器をつけても、言葉を聞き取る脳のトレーニングをしないと聞けない。そこが眼鏡と違うところ。認定技師と協力し合って自分に合った補聴器に仕上げ、トレーニングによって聞こえてくる様々な音の

**答** 令和4年11月には町長から、加齢性難聴者への補助制度で社会参加をサポートすることを4年間で形にするということが示され、町独自の補助制度の導入について、財源等も含めて制度設計を進めている状況。

金額に躊躇してしまいう高齢者も多い中、中井町として可能な支援をどのように検討されているか。

当初は他の自治体同様、いくら出せばいいというレベルであったと思う。

しかし、そこからの社会参画または一人ひとりの状況を把握した条件整備に取り組む必要があると思う。同時に、これは全体の高齢者施策の中の一環なので、その点はしっかりと受け止めながら、多様な介護ニーズを踏まえていかざるを得ないと理解している。

中井町で現在取り組まれている高齢者の社会参加への様々な支援と一体に取り組むことがポイントになるのでは。

**答** 指摘いただいた調整あるいは聴覚リハビリテーションに向けてのケアなど、どこまで町とすることができるのか、検討すべきである。



一般質問

# 小学校の教材費の無償化は

他 1 問



古宮 祐二 議員

## 町長 保護者に過重にならないよう負担してもらおう

**問** ここ2、3年、パソコンが主流になって、デジタル教材が増えているのか。

**答** 小学校においては、有償のデジタル教材を使用しているとすることはありません。

**問** 30〜50種類ぐらいの教材というのは、その都度集金をしているのか。

**答** 学校で年間、保護者の方にご負担いただく教材のリストを作成し、4月当初のPTAの会議等で、月々の集金にご協力くださいというお願いをしている。

**問** 東京の町田市で、教材費が一括して会計処理を行うという仕組みに改められた。公会計処理で集めるという考えは。

**答** 公会計化することで職員負担軽減になるというような認識において、今後学校と必要に応じて情報を共有し、協議して行く。

**問** 兄弟姉妹がいた場合、数回しか使わないものを購入するように思うが。

**答** 家庭にある人は購入しないでいいという配慮の下、案内をしている。



**問** 昨年に比べて、物価が上がっている。教材費で値段が上がったものは、何かあるか。

**答** 具体的に何が値上がりしたのかというところは、率直に申し上げて教育委員会としても把握しているところではない。

**問** 教材費の無償化についての考えは。

**答** 児童が副教材として使うものについては家に持ち帰ったり、自分のものとなるため、保護者にできるだけ費用がかからない、過重にならないような形で負担しているのが全国的に一般的。ただし、市町村が独自の形で補助を出すということはあります。

### 带状疱疹ワクチンの助成について

**問** 現在、町では年間何名ぐらいの人が带状疱疹になっているのか。

**答** ワクチンを接種することで発症や重症化の防止が期待できることから、現在、50歳以上を対象としたワクチンの任意接種が可能。

国においてワクチンの予防接種法上の定期接種化が検討されている。年間で何人といったような具体的な数値は町全体として、報告義務はない。

**問** 带状疱疹で後遺症になった方がいるか。

**答** 50歳以上で発症した場合、約2割の方が後遺症が残ると言われている。

**問** 松田町が費用を補助するということになったが。

**答** 免疫力等が低下した際に、かかりやすくなっているという印象。私の身の回りにもおりますし、後遺症で悩んでいる人も定期接種化について、要望書等をしつかりと出していきたい。



一般質問

# 中井町の熱中症対策の状況は



石渡 正次 議員

## 町長 普及啓発や注意喚起、備品の配備に努める

本格的な夏に向け、熱中症の危険は日に日に高まっている。そこで、学校を含む公共の施設において、どのような対策を施していく考えなのか質問します。

**問** 「熱中症警戒アラート」の発表を受けた後、どのような方法で町民と共有しているのか。

**答** 防災行政無線、ラインを使って情報発信をしている。また、テレビ、ラジオ、インターネットを通じて幅広く発信されているので、町の情報発信もそれを補完する形で伝えている。

**問** 外国人に対して、共有する特別な方法をとっているか。

**答** ホームページは外国語対応という形で切り替えができる。外国人の方から、SNSを使って情報を得ると聞いている。紙ベースでは、やさしい日本語を使用するよう配慮している。

**問** 文部科学省から「学校における熱中症ガイドライン」の作成の手引きが出されている。教育委員会では、ガイドライン作

成をどのように考えているか。

**答** 各学校において教育活動に資するため、ガイドラインを作成している状況。町内の小学校では県の教育委員会で作成した県立学校の「熱中症ガイドライン」を参考に対策を講じている。中学校は昨年度、管内の養護教諭部会でガイドラインを作成する動きがあったので、それを受け、中学校独自のガイドラインを作成し運用している。

**問** 町内の学校では、どのような熱中症対策を行っているか。

**答** 管理職と養護教諭が毎朝、ウェブサイトにアクセスし、アラートが発令されているかを確認。発令されていたら、職員室内の連絡黒板に掲示し、職員や児童・生徒間で運動不可を共有している。発令されてなくても、各学校に「暑さ指数計」があるので、こまめに計測し、暑さ指数が31度に達したならば、原則運動を中止し、昇降口に目立つ赤字で表示したり校内放送を使ったりして周知をしている。また、暑さに応じ、帽子の着用、薄着の推進、水分の補給、休憩を

挟んでの活動等を指導している。

**問** 保護者に熱中症の対策の詳細を事前に知らせるなど共有化を図るための対策をしているか。

**答** 学校長が学校便りを発行し、保護者に必要な情報を伝えている。町コミメールを緊急時に有効的に活用しており、熱中症に関わる部分も必要に応じ伝えているが、どの程度周知しているか把握できていない。

**問** 自分で判断し自己管理を主体的にしていける力を育む意味と、客観的に判断する目を育む意味で、「暑さ指数計」を各学年1台ずつ準備されては。

**答** フロアの関係などが学年によって違うので、学校とよく相談して予算要求の中で考えていきたい。

**問** 体育館に空調設備を設けると集会、体育の授業、クラブ



パークゴルフ場の熱中症対策（ミスト）

活動、学校行事等が通常通り実施でき、体育館での熱中症も防ぐことができる。また、中井町では体育館を避難所としているが、安全・安心な避難所として機能することにも繋がっていくが。

**答** 大型扇風機を活用して対応しているのですが、学校がどのように考えているのか確認したい。また、災害時等を含め、学校教育において、必要なものということになってきそうな状況。関係各課と話し合い、必要に応じて対応していく。

一般質問



曾我尚人 議員

# SNSの有効活用とリスク管理は

## 町長 一層の厳格かつ発展的な活用を目指す

SNSによる情報発信は年々影響力のあるものになっている。災害時、犯罪発生時など情報伝達に緊急性がある場合にも有効なツールである。

町外の方へ中井町をPRする際にも大変有効だが、PRの効果を上げるためには登録者数を増やすことが必要であると考え

る。また、SNSは拡散力がある反面リスクのあるものなので伺います。

**問** 現在の中井町のSNSの運用方針、取り上げる内容とタイミングはどのような体制で判断されているのか。

**答** SNSの運用に関しては、中井町ソーシャルネットワークサービス運用基準及びソーシャルメディアごとに作成している運用ポリシーに基づき運用している。

運用管理者は地域防災課長、発信管理者は情報発信する各部署の所属長と定めている。

**問** SNSの運用計画についてシティプロモーションアクション

プランの計画を基に運用していると思うが、令和5年度以降もあるのか。

**答** 令和7年までについては毎年計画とその実証というところも含めて、計画的に実施していく。



**問** SNSのコメントやメッセージで町への質問、提案などがあつたときの対応は決まっているか。

**答** 基本的にSNSでは返信はしないが、有用な質問、提案については受付対応している。

**問** ユーチューブで動画を作る場合、ユーチューブそのものの特性を考えると、期限のあるイベントの告知のような瞬発的なPRでなく、里都まちなかいブランドの商品や、観光場所のP

Rなど、瞬発性より持続性が重視される情報を置いておく場所と、考えるほうが有効ではないか。

**答** 継続的に徐々に拡散していく事が求められる。情報等には大変有効だと考えている。そのような形の中で、町も今後動画作成を行っていきたいと考えている。

**問** 町のSNSでは、子どもの顔が確認できるような写真も見受けられるが、肖像権についてはどう考えているか。

**答** 顔が写るようなものに関しては本人に撮影掲載の確認を取った中で上げている。奥に写っている人で確認が取れない場合もあるが、基本的に確認をとって上げている。

**問** 「フォロー」「いいね」に関して公平公正さを守るためにルールづくりをしたほうがいいと思う。ルール等を作成し、運用ポリシーに書いてはどうか。

**答** ルールについては現在運用ポリシーに書いてないというこ

とで、明確にした方が公平性という部分ではいいと考えている。町としても改善していきたいと考えている。

**問** 運用するにあたってフォロー増加数、平均いいね数、表示数など具体的な目標をたてて運用してみてはどうか。

**答** 現在はフォロワー数、いいね数などを目標にはしていない。まずは町の情報を確実に伝えるというところを大きな目標にしている。

しかしフォロワー数が増えるメリットは感じているので、数字を伸ばしやすいテクニックなどを考えながら運用している。





# 議会のつぎ

## 5 月

9 日 臨時会

議会全員協議会

15 日 新議員研修会

19 日 正・副委員長研修会

23 日 正・副議長研修会

30 日 議会運営委員会

## 6 月

6 日 定例会本会議

7 日 定例会本会議

8 日 文教民生常任委員会

9 日 総務経済常任委員会

議会運営委員会

議会全員協議会

定例会本会議

議会全員協議会

14 日 総務経済常任委員会協議会

19 日 文教民生常任委員会協議会

## 7 月

4 日 議会だより編集委員会

14 日 議会だより編集委員会

18 日 議会だより編集委員会

19 日 総務経済常任委員会

24 日 文教民生常任委員会

### 総務経済 常任委員会

5月の臨時議会で委員選任後、初めての委員会を6月8日に開催しました。  
今回の委員会では、これからの所管事務の調査・研究テーマを「空き家対策について」と「有害鳥獣対策について」に決定しました。

### 委員会から報告します

6月7日に新たな委員により、第一回の委員会を開催しました。今定例会で付託されました「国に対し、適格請求書等保存方式（インボイス制度）の延期・見直しを求める陳情書」については、陳情趣旨に賛同し、採択することに決定しました。また、所管事務の調査・研究テーマを「学校給食センターの現状と課題について」に決定しました。

### 文教民生 常任委員会



学校給食センター

## 議会を傍聴しませんか

湘南ケーブルテレビ(102チャンネル)生放送

次回の定例会は

**9月5日(火) 開会予定**

## 編集後記

富士登山のシーズン真っ盛りです。コロナによる行動制限の緩和後、初の山開きということもあり、ほとんどの山小屋は既に予約で満杯だそうです。約10万年前に誕生し、何度も繰り返された噴火により現在の壮麗な姿になった富士山。毎日見ている山なので一度は登ってみたいですね。  
さて、私たち編集委員も6月より新メンバーになりました。全員張り切っていますので、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせ願います。  
(土岡)

## 町民の声

林 二三四さん（境原）

令和2年の春に義母の介護のため、中井町に転居しました。自然に恵まれ、鳥のさえずりで目を覚ます幸せを感じています。「とても長閑で、心が穏やかになる。ここは本当に良い所だね。」と息子達も言っています。  
この地域に馴染みたいと令和4年度に組長を引き受け、知り合いも増え充実した毎日を過ごしています。町民の毎日の生活に直結し、その声を反映させる自治会活動の重要性を感じています。  
しかし子ども数の減少により、中井町子ども会育成指導者連絡協議会の組織が変わることとなり、それに伴い5年度から子ども会活動を休止するとの報告がありました。以前から「ここでは子ども達の声が届かないね」と妻と話していました。町の広報の人口統計でも減少の一途を辿っています。  
町の将来にとっても重大な問題で、「訪れたい」「住みたい」と若者達にも思ってもらえるような町にするために、環境を整えていかなければなりません。町の持つ魅力をもっと発信し、町長を筆頭に一体となり、知恵を出し合い打開策を講じなければならぬと思います。各世代が住み良いと思える町、「中井町」になつて欲しいと心から願っています。



委員 関野 達夫

委員 曾我 尚人

副委員長 相原 晃一

委員長 古宮 祐二  
議会だより編集委員

委員 武井 一紀